

2011年度（第15回） 神戸大学ボランティア講座 受講生募集要項

[日程]

- 講義等 …………… 2012年2月19日（日）
体験実習 …………… 2012年2月21日（火）～3月18日（日）の内3日間
意見交換会 …………… 2012年3月21日（水）

[会場]

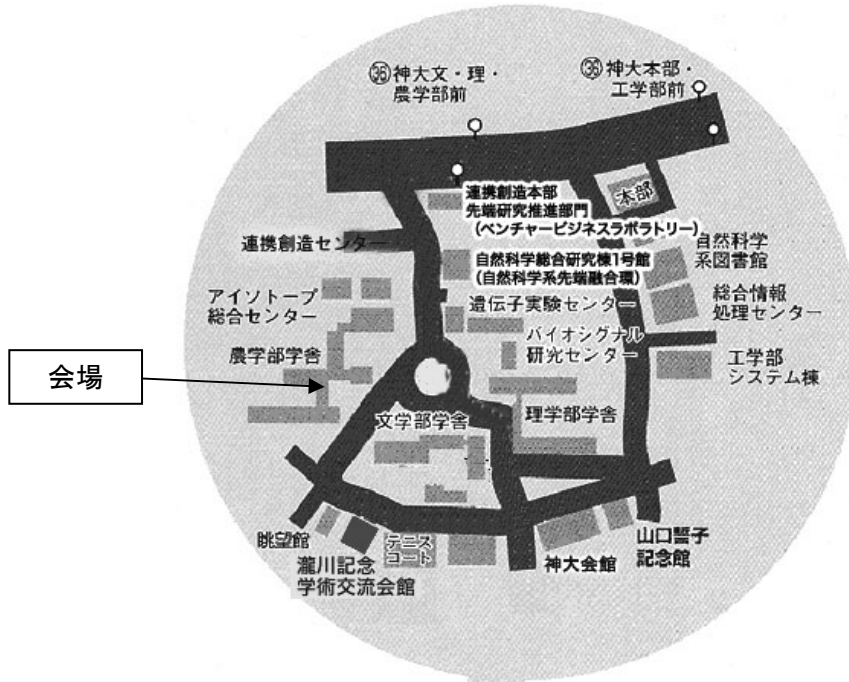
- 講義等 …………… 神戸大学農学研究科C101教室
体験実習 …………… 協力団体の各施設
意見交換会 …………… 鶴甲第1キャンパスD312教室

主催：神戸大学
学務部学生支援課
都市安全研究センター学生ボランティア支援室
協力：神戸大学学生震災救援隊
神戸大学総合ボランティアセンター

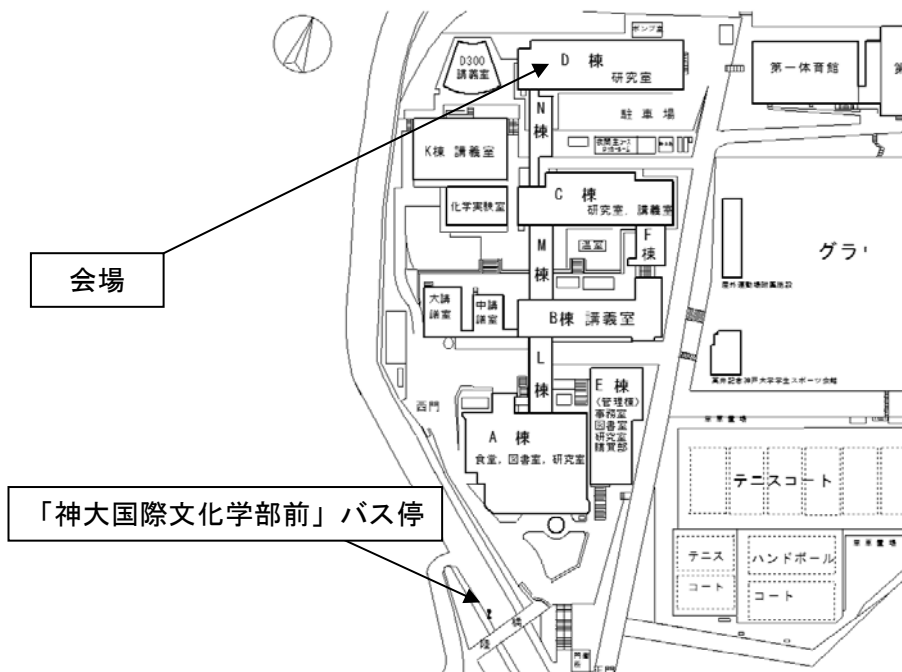
※受講申込書は、この募集要項の最後に綴じ込んでいます。

会場案内

- 2012年2月19日(日) 講義等会場：神戸大学農学研究科 C 101 教室
 【交通アクセス】阪急六甲・JR 六甲道・阪神御影の各駅より、神戸市営バス 36 系統乗車、「神大文・理・農学部前」バス停にて下車（下地図参照）。



- 2012年3月21日(水) 意見交換会会場：鶴甲第1キャンパスD312教室
 【交通アクセス】阪急六甲・JR 六甲道・阪神御影の各駅より、神戸市営バス 16 系統乗車、「神大国際文化学部前」バス停にて下車、徒歩5分（下地図参照）。



1. 講座趣旨

本講座は、神戸大学生が課外でのボランティア活動や社会活動などを通じて、キャンパスの中だけでは得られない社会の実際に即した学びを得ることを目的としています。この講座の原点である1995年の阪神・淡路大震災に際しては、多くの神戸大学生が地域での救援ボランティア活動に従事し、被災した人々と真摯に向き合う中で、地域に存在するさまざまな社会的課題に気づかされ、自分の生き方や社会的役割そのものを問われる経験をしました。これを契機に、被災地にある総合大学として、神戸大学はこのような真摯な学びの場を提供し得る学生による課外での社会活動の重要性を認識し、その推進と支援を目的として1997年度より本講座を実施してきました。

なお、本講座は神戸大学学務部と神戸大学都市安全研究センター学生ボランティア支援室の連携のもと、本学学生サークル「学生震災救援隊」「総合ボランティアセンター」の協力を得て企画実施するものです。

2. 本年度テーマ 「被災した人々の生活再建と被災地の復興」

本年度は「被災した人々への支援と生活の復興」をテーマに設定して本講座を実施します。

2011年3月11日に起きた東日本大震災では、東北の多くの人々が、まったく突然に、家族・知人・友人を失い、また家や仕事を失いました。多くの人が長期の避難生活・仮設住宅での生活を強いられ、福島県の人々を始め、故郷に戻る目処も立たない人が大勢おられます。

このような経験を経た人々に対して、私たちには何ができるのでしょうか。さらに一人ひとりの生活の再建、また被災した地域社会の復興はどうなっていくのでしょうか。

本講座では、自然災害からの生活再建と地域社会の復興を、阪神・淡路大震災の被災地と和歌山県那智勝浦町の水害被災地に学び、同時に、今後の東日本大震災被災地の復興についても合わせて考えていきたいと思えます。

「阪神・淡路大震災の被災者・高齢者への支援」「神戸の市街地の住宅と商業の復興」「那智勝浦の農業・漁業と津波・水害の被害」という3テーマのフィールドワークを通して、それぞれのテーマ毎に異なる生活再建と復興の課題を具体的に学びます。

3. 概要

- ◎定員 45人（19日の講義のみ一般参加を含め100人）
- ◎対象者 主に神戸大学生（講義は一般公開。学外者の実習参加はお問い合わせ下さい）
- ◎受講料 無料
- ◎申込方法 巻末に綴り込んである「受講申込書」に必要事項を記入し、体験実習分野と日程を選択のうえ、2012年2月15日（水）午後5時までに学務部学生支援課生活支援グループ学生相談担当、学生ボランティア支援室、各学部・大学院各研究科教務学生担当係のいずれかに提出してください。
- ◎会場 講義は神戸大学農学研究科 C 101 教室で実施。実習は各受入先で実施。意見交換会は鶴甲第1キャンパス D 312 で実施。

◎講座内容

I 総論・入門編としての講義等 2012年2月19日（日）10:00~17:00

- ① 開講挨拶（10:00~10:20）
- ② 講義「阪神・淡路大震災から何を学ぶか—東日本大震災を受けて」（10:30~12:00）
講師：室崎 益輝 先生（関西学院大学総合政策学部教授）
- ③ パネル討論「災害ボランティアから見る生活再建と復興の課題」（13:00~16:00）
パネリスト： 牧 秀一 氏（NPO 法人よろず相談室 理事長）
田中 保三 氏（住民グループ「まち・コミュニケーション」顧問）
鈴木 孝典 氏（神戸大学学生震災救援隊）
司会：藤室 玲治 氏（神戸大学学生ボランティア支援室コーディネーター）
- ④ 実習ガイダンス（16:15~17:00）
参加するフィールドワークのテーマ毎に分かれ、実習先の紹介と実習先が取り組んでいる問題に関する簡単なガイダンスを行います。

II 体験実習 2012年2月24日（火）~3月19日（月）のうちの3日間

各実習先の協力を得て、上記の期間内に体験実習を行います。体験実習は①「阪神・淡路大震災の被災者・高齢者への支援」、②「神戸の市街地の住宅と商業の復興」、③「那智勝浦の農業・漁業と津波・水害の被害」の3分野で、受講者が選択した分野で体験実習を行います（最低、ひとつの分野を選択下さい）。

定員（各分野15名）に達した分野については先着順で〆切ります（特定の分野を強く希望する場合は早めにお申込み下さい）。逆に、定員に空きがあれば、希望者は第1希望分野以外に第2希望や第3希望の分野の実習にも参加可能です。

Ⅲ 意見交換会 2012年3月21日(水) 10:00~18:30

体験実習などを中心に意見交換及び情報提供などを行い、より深い問題意識などを養うことを目的とし、次の内容により行います。

- ① グループ内討論 (10:00~12:00)
- ② 発表・全体討論 (13:00~17:30)
コメンテーター：各実習現場関係者より1名ずつ (3分野3名)
- ③ 講評 (17:40~18:00)
- ④ 閉講のあいさつと講座修了認定証配布 (18:00~18:30)

◎ボランティア保険の加入について

体験実習に参加する場合は、ボランティア保険に加入します。未加入の方は2月19日(日)の本講座受付で加入手続き(加入料：50円)を行ってください。

◎交通費・宿泊費について

③「那智勝浦の農業・漁業と津波・水害の被害」以外の分野では、実習先に行くための交通費(定期券等が重複していない区間のみ)は一人当たり1,000円を限度に支給されます。実習時に請求書に記入して実習終了後、実習グループ代表に提出し、3月21日(水)の意見交換会の際に受け取ることになります。

2泊3日で実施する③「那智勝浦の農業・漁業と津波・水害の被害」分野については、大学の借り上げたバスで移動するため、交通費は必要ありません。宿泊費も不要です(ただし、現地での食費は自己負担)。

◎レポートの提出について

受講者は、初日の講義と現場実習に関するレポート2本を3月19日(月)までに提出して頂きます。これにより受講者、協力者及び協力団体へのフィードバックと、将来の大学活動での活用を図ります。

◎修了証の交付について

受講状況などの所定の要件を満たし、レポートを提出したのものには、修了証を交付します(単位の認定は行いません)。

問い合わせ先：

【学務部学生支援課】

〒657-8501 神戸市灘区鶴甲1丁目2-1

神戸大学学務部学生支援課生活支援グループ学生相談担当(藤原)

TEL：078-803-5227 FAX：078-803-5209 E-mail：stdnt-gkmsodan@office.kobe-u.ac.jp

【学生ボランティア支援室】

〒657-8501 神戸市灘区鶴甲1丁目2-1 神戸大学学生ボランティア支援室(藤室)

TEL：078-803-6256 FAX：078-803-6028 E-mail：svs@port.kobe-u.ac.jp

体験実習（1）「阪神・淡路大震災の被災者・高齢者への支援」

阪神・淡路大震災後、神戸の復興住宅は、被災者が元々住んでいた土地から離れた場所に建てられたケースが多く、入居者にとっては、知らない土地で周りには知らない人ばかり……という状況が作られてしまいました。特に高齢者の生活は厳しく、震災から18年目を迎える今も、誰にも看取られること無く亡くなる「孤独死」が後を絶ちません。

2011年3月11日発生の東日本大震災の被災地でも仮設住宅などでは既に同様の問題が起こっています。また今後、個々の被災者・高齢者を支える新しいコミュニティをどのように形成するのかが、重要な問題になります。

この分野では、阪神・淡路大震災の課題とそれに対する取組を、実際に高齢者の方々と交流しながら考えていきたいと思っています。

① カフェ活動への参加（2日間）

「阪神高齢者・障害者ネットワーク」という団体の協力の下、「伊川谷工房あじさいの家」と「新大池東住宅」での活動に参加します。合計4日間の実習日の中から、2日間を選んで参加してください。同じ実習先に2日間参加してもかまいません。

実習概要	実習内容と場所	実習期間
サロン・お茶会への参加 ※2日選択。 同施設でも違う施設でも良い	実習内容：デイサービスを利用されている方々と一日交流します。 実習場所：「伊川谷工房あじさいの家」 神戸市西区前開南町 1-2-1	時間：9:15～17:00 集合：地下鉄西神山手線 伊川谷駅 9:00 集合 ・2月29日（水） ・3月19日（月）※足湯
	実習内容：復興住宅で開催されるお茶会に参加し、住民の方々と交流します。 実習場所：神戸市須磨区板宿「新大池東住宅」	時間：9:30～17:00 集合：JR 鷹取駅 9:00 ・2月24日（金） ・3月2日（金）※足湯

② 復興住宅での戸別訪問（1日）

復興住宅を戸別訪問し、生活相談などを行っている「よろず相談室」の活動に参加します。2日間の実習日の中から1日を選んで参加します。午前中に同相談室主宰である牧秀一さんからレクチャーをしていただいた後、実際に戸別訪問に参加します。

実習概要	実習内容と場所	実習期間
復興住宅での戸別訪問 ※1日選択	実習内容：よろず相談室の復興住宅に住む高齢者を対象にした戸別訪問活動に参加します。 実習場所：神戸市東灘区の「よろず相談室」に集合後、神戸市内各所に移動します。	時間：10:00～18:00 集合：9:45 阪神住吉駅前 ・2月26日（日） ・3月3日（土）

高齢者と「生きがい」の実習では、「※足湯」と書かれている日程で、利用者の方々と「足湯ボランティア」を通して交流します。ズボンなど、動きやすい服装で参加してください。

体験実習（２）「神戸の市街地の住宅と商業の復興」

阪神・淡路大震災では、多くの住宅地・商店街がダメージを受けました。特に火災によって、被災地全体で70haが焼け、こうした地域の復興は大きな課題となりました。

復興のために、住民による会議や協議会が結成され、様々な意見を調整しながら復興の取組が行われました。また元の地域を離れ、郊外などの仮設住宅に入居された方々や県外に避難された方々などと、コミュニケーションを図るのも大変でした。

東日本大震災被災地でも、復興計画のあらましが決まり、今年の4月から復興の取組が本格化しますが、かつてそこに住んでいた人々が納得するような復興を成し遂げるのは、大変に困難な課題です。

この分野では、神戸市長田区・兵庫区・灘区の4つのまちを訪問して、復興にあたってどのような課題を解決しながら、まちづくりが行われていったのかについて学びます。

①神戸市長田区御蔵地区と真野地区の復興まちづくり

実習概要	実習内容と場所	実習期間
長田区・御蔵地区と真野地区の復興まちづくり	実習内容：火災などにより甚大な被害の出た御蔵地区と、震災以前よりまちづくりの取組が盛んな真野地区の復興まちづくりを学ぶ。 実習場所：両地区をフィールドワーク	日時：3月9日（金） 9:00～17:00 集合：9:00に神戸市営地下鉄長田駅前集合

②神戸市兵庫区野田北部地区の復興まちづくり

実習概要	実習内容と場所	実習期間
兵庫区・野田北部地区の復興まちづくり	実習内容：火災などにより甚大な被害の出た野田北部地区のまちづくりを学ぶ。また多文化共生の取組の拠点となっている「たかとりコミュニティセンター」も訪問します。 実習場所：野田北部地区、たかとりコミュニティセンター	日時：3月16日（金） 13:30～17:00 集合：13:30にJR鷹取駅前集合

③神戸市灘区琵琶町の復興まちづくり

実習概要	実習内容と場所	実習期間
灘区・琵琶町の復興まちづくり	実習内容：JR六甲道駅の東側にある琵琶町の被害は大きく、当時の神戸大学生も犠牲になった。この琵琶町の復興まちづくりを学ぶ。 実習場所：琵琶町をフィールドワーク	日時：3月18日（日） 9:00～12:30 集合：9:00にJR六甲道駅前集合

体験実習（3）「和歌山県・那智勝浦町の農業・漁業と津波・水害の被害」

2011年8月25日に太平洋上で発生した台風12号は、大型で非常に強い勢力で、ゆっくりと四国から中国地方を横断し、紀伊半島を中心に1000mm（8月30日17時からの総降水量）を超える雨を降らせました。和歌山県、奈良県、三重県などにおいて、多くの土砂災害、浸水、河川のはん濫が発生し、死者78名、行方不明者16名という大きな被害が出ました。

和歌山県那智勝浦町も、この水害で大きな被害を受けた自治体です。東日本大震災被災地で活動していたボランティアグループなどが、発生直後から活躍する等、復旧作業が行われていますが、山の中の集落などでは、家屋の泥出しなどの作業が今も続いています。大きな被害を受けた地区のひとつ、色川地区は1970年代から農業や田舎暮らしを希望して都会から移り住む、Iターン者を多く受け入れてきた地域です。

また有名なマグロの漁や養殖においては、東日本大震災でも被害を受け、さらに、今回の水害で大きな被害を受けています。

この分野では、那智勝浦町で、復旧のためのボランティア活動を行うとともに、農業・漁業と津波・水害の被害を学んでいきます。

日時	実習プログラム
3月13日（火）	
8:00	阪急六甲駅の東、梅仙寺前集合、バスで移動
13:00	那智勝浦町役場に到着
13:30	那智勝浦町役場より、台風被害の概要についてお話をうかがう
15:30	那智勝浦漁協より、漁業被害の概要についてお話をうかがう
17:30	夕食、宿所に移動
3月14日（水）	
8:30	那智勝浦町井関の「ボランティアベース和（なごみ）」に集合
9:30	色川地区で復旧作業ボランティア
16:00	色川地区についてお話をうかがう
3月15日（木）	
10:00	那智勝浦町の仮設住宅で足湯ボランティア活動
16:00	那智勝浦町を出発
21:00	阪急六甲駅の東、梅仙寺前にて解散

※このプログラムのみ、2泊3日の行程です。

※宿泊費、交通費は不要ですが、期間中の食費・入浴費等は自己負担となります。多目に見積もって、1万円程度をご用意下さい。

※3月14日の色川地区での復旧作業には、長靴など、現場仕事用の装備・服装が必要です。

2月19日のガイダンスなどで指示するので、各自で用意ください。

